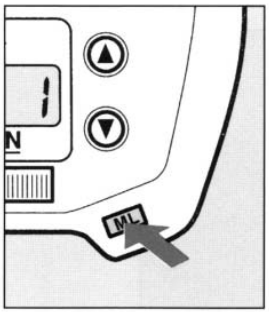
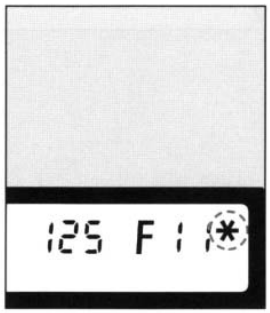
メモリーロック撮影について



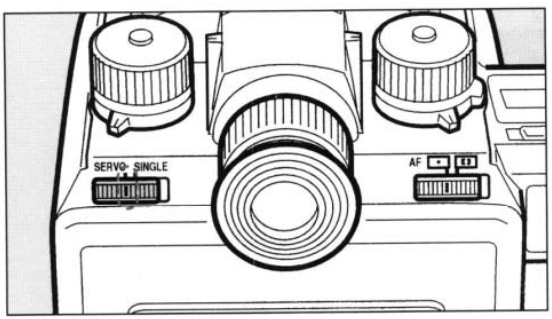


メモリーロックは、撮影前の露出をカメラに記憶させるもので、スポット測光と組み合わせて使用すると便利です。
被写体が非常に小さく適正露出を得るのが難しい状態のときなどにお使いください。

露出を合わせたい物にカメラを向け、メモリーロックボタン ML を押すと露出が記憶され、ファインダー内に ＊ が表示されます。

＊メモリーロックボタン ML を押してから 20 秒間はタイマーが働き、ボタンから指を離しても露出が記憶されています。
＊メモリーロック中にシャッターボタンを半押ししたままにすると、メモリーロックボタン ML から指を離してもメモリーロックはそのまま継続します。
＊メモリーロック中にもう一度メモリーロックボタン ML を押すと解除できます。
＊マニュアル露出ではメモリーロックはできません。

AF モードをサーボにします



シャッターボタンを半押ししている間、写したい物の位置が変わっても、それに合わせて連続的にピントを合わせ続けます。ピントが合っていなくてもシャッターボタンを押し込めばいつでもシャッターは切れます。

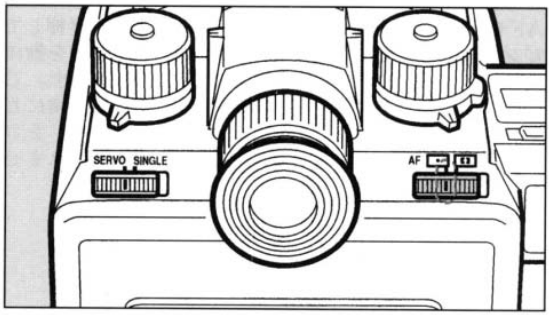
AF モード切り替えレバーを SERVO 位置に合わせます。

動体予測

AFモードが SERVO では、シャッターボタン半押しでピント合わせをしているときに、カメラが写す物を動体と判断すると、自動的に動体予測に切り替わります。この場合には、レンズが連続的に駆動し、常に写す物にピントを合わせ続けます。ただし、連続撮影の場合、2 コマ目以後は、ピントが合わないとシャッターが切れません。

スポットAFについて

1



ある特定の狭い範囲だけにピントを合わせたいときにお使いください。

1. AF エリア切り替えレバーを [⊡] 位置に合わせます。

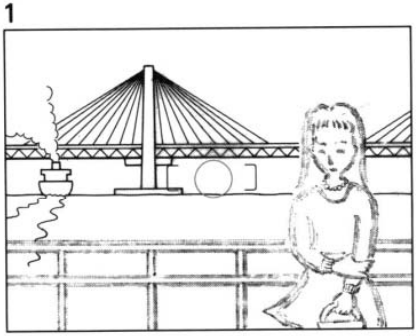
2

2. スポットAFでは、図で示す円の内側にだけピントが合います。

＊ピントを合わせたい物が画面中央にない場合には、フォーカスロックをご利用ください。[59 ページをご覧ください]

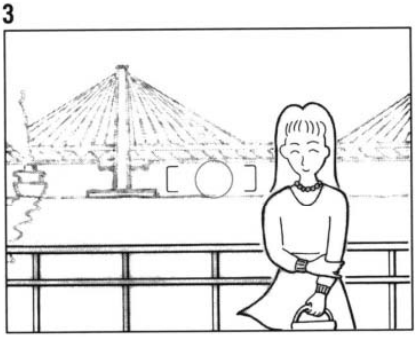
フォーカスロック撮影について

1



2

3



スポットAFでのピント合わせは、ファインダー内のスポット範囲円 [○] の内側だけで行なわれますから、ピントを合わせたいものが [○] から外れていると写したい物にピントが合いません。

1. スポット範囲円 [○] が外れたままで撮影すると、図のように後ろにピントが合ってしまいます。

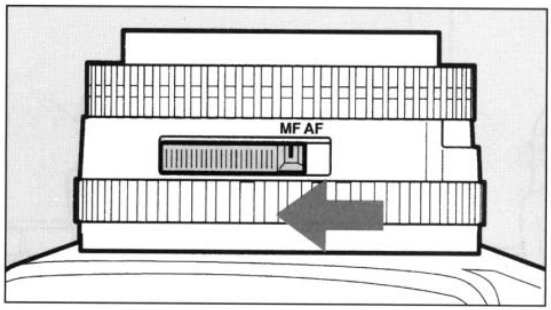
＊フォーカスロックは、できるだけスポットAFでの使用をお勧めしますが、3点AFでも可能です。

2. AFモードを [SINGLE] にし、ピントを合わせたいものにスポット範囲円 [○] を合わせ、シャッターボタンを半押し状態にして [⬭] を点灯させたままにしておきます。
3. シャッターボタンを半押しのまま、元の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し切って撮影します。

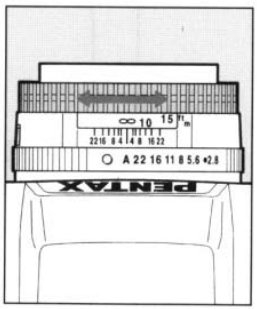
＊シャッターボタンから指を離して、ファインダー内の [⬭] が消えると、フォーカスロックは解除されます。
＊別の場所にフォーカスロックをするときは、一度シャッターボタンから指を離してから再び、押し直してください。

手動によるピント合わせ

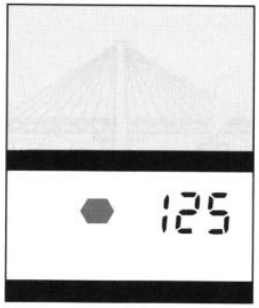
1



2



3



ファインダー内の合焦マーク ⬡ を利用する場合

使い方

1. レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。

＊レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。

2. ファインダーを覗きながらシャッターボタンを半押しした状態で、レンズの距離リングを左右に回してください。
3. ピントが合うとファインダー内の合焦マーク ⬡ が点灯して知らせます。そのままシャッターボタンを押し切って撮影してください。

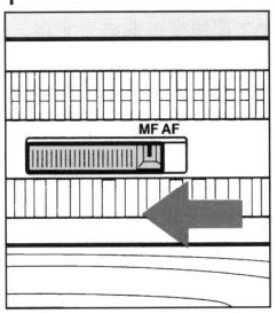
＊カメラ側にはオートフォーカスとマニュアルフォーカスの切り替えはありません。
＊レンズがAレンズ[LSレンズを含む]の場合やオート接写リングA645・リアコンバータA645などのアクセサリーを使用した場合も同じ使い方ができますが、カメラの設定に関係なくファインダー中央のスポット範囲円の内側でのみピント合わせが行われます。
＊ファインダー内の合焦マーク ⬡ が使えるのは、レンズの明るさがF5.6および、それより明るい場合です。
＊ピントが合った時に、ファインダー内の合焦マーク ⬡ の点灯と同時に「ピピッ」と電子音を鳴らすこともできます。14ページをご覧ください。

オートフォーカスが使えない場合

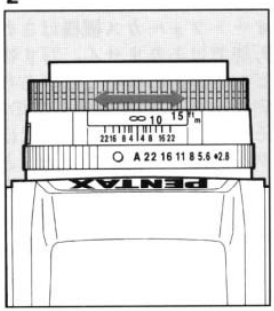
以下の理由で、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク ⬡ が使えない場合は、ファインダーのマット面を利用した手動ピント合わせをしてください。

・「オートフォーカスの苦手な物」で合焦マーク ⬡ が点滅しているとき。62ページをご覧ください。

1



2



マット面を利用する場合

使い方

1. レンズ側をマニュアルフォーカスに切り替えます。
2. ファインダーを覗きながら、レンズの距離リングを左右に回してファインダー内の映像が最もはっきり見えるようにピントを合わせ、撮影してください。

＊レンズ側の切り替え方法はレンズによって異なります。詳しくは、レンズの説明書をご覧ください。

オートフォーカスの苦手な物

オートフォーカス機構はきわめて高精度のものですが、万能ではありません。写す物が下記のような場合には、ピントが合わないことがあります。ファインダー内の合焦マーク ⬭ を利用しての手動ピント合わせも同様です。そんなときは、写す物とほぼ等しい距離にフォーカスロックをしたり、従来のカメラと同様にファインダーのマット面を利用して手動ピント合わせを行なってください。フォーカスロックについては、59 ページを、マット面を利用したピント合せについては左をご覧ください。

a) AFフレーム [ ] の内側に白い壁などの極端にコントラスト[明暗差]の低い物だけの場合。
b) AFフレーム [ ] に光を反射しにくい物がある場合。
c) 非常に速い速度で移動している物。
d) 遠近のものがAFフレーム [ ] の中で同時に存在する場合。
e) 反射の強い光、強い逆光[周辺が特に明るい物]。
f) 格子など繰り返しパターンの場合。

アクセサリーの注意

以下の条件では、オートフォーカスやファインダー内の合焦マーク ⬭ を利用した手動ピント合わせができません。61ページの手順に従って、ファインダー内のマット面で手動ピント合わせをしてください。

a)特殊なフィルターなどを使った場合。
b)「接写リング」や「オートベローズ」を使った拡大接写撮影の場合。

偏光フィルターについて

オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。

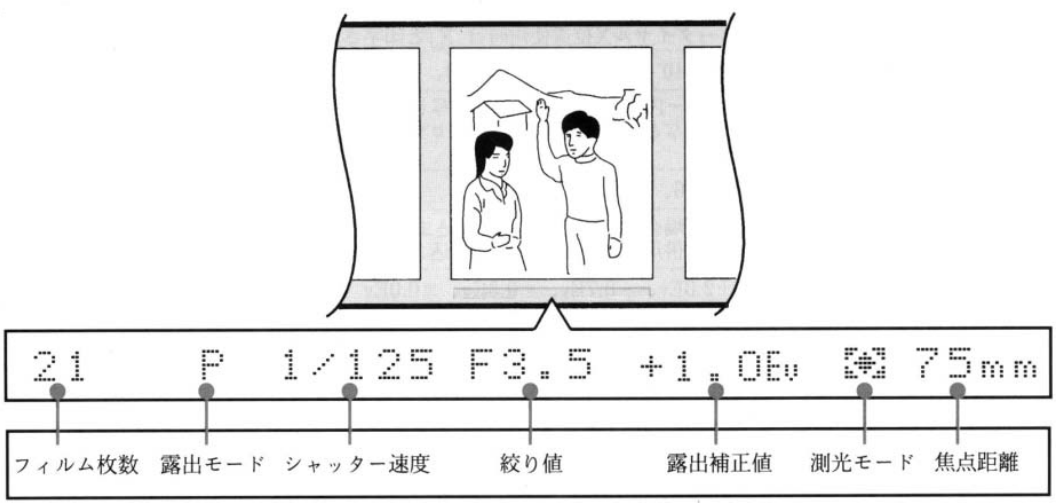
撮影データをフィルムに写し込みます

このカメラは、撮影時のフィルム枚数・露出モード・シャッター速度・絞り値などの撮影データをフィルムに写し込むことができます。撮影データの写し込みは、フィルムの余白部分に印字されます。

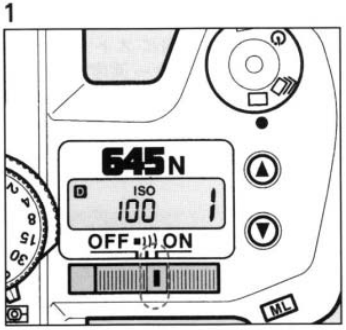
＊撮影データの写し込みは、表示パネルに D が表示されている時に行われます。また、撮影データを写し込まないようにすることもできます。65ページをご覧ください。
＊撮影データの文字がフィルム上に印刷してある文字と重なることがあります。

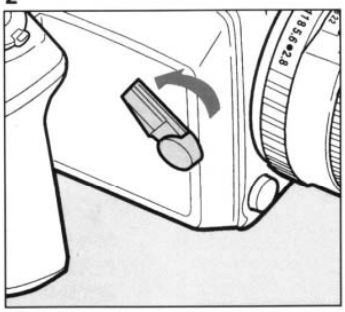
フイルムに写し込まれる撮影データについて

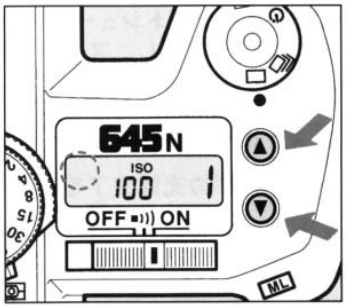
撮影データは、図のようにフィルムの余白部分に写し込まれます。詳しくは、64ページをご覧ください。



項目	内容[印字例]
フィルム枚数	1〜99枚までの写し込みが可能です。
	印字例　1、10、33、95 など
露出モード	M(マニュアル露出)・Tv(シャッター優先自動露出)・Av(絞り優先自動露出)・P(プログラム自動露出)で写し込まれます。
	印字例　M、Tv、Av、P
シャッター速度	基本的には、ファインダー内に表示された数値が写し込まれます。バルブ撮影時は9999秒までの露光時間が写し込み可能で、それ以上は BULB と印字されます。レンズシャッター付きレンズ使用時は LS 、シャッターダイヤルX位置使用時は X と印字されます。
	印字例　1/1000、1/60、10''、30''、B4''、B9999、BULB、LS、X など
絞り値	基本的には、ファインダー内に表示された数値が写し込まれます。ただし、67レンズアダプター645やヘリコイド接写リングなど情報接点のないアクセサリーを使用した場合は、F- - が写し込まれます。
	印字例　F2.8、F4、F5.6、F13、F-- など
露出補正値	露出補正をかけていない場合は ±0.0Ev と写し込まれます。オートブラケットの補正値も写し込まれます。露出補正との併用時は、加算値が写し込まれます。
	印字例　+0.4Ev、+2.0Ev、−0.7Ev、−0.3Ev、±0.0Ev など
測光方式	(分割測光)・(中央重点測光)・(スポット測光)のマークで写し込まれます。
	印字例　、、
焦点距離	焦点距離の写し込みは、オートフォーカス可能なFAレンズのみで可能です。ズームレンズの場合は、焦点距離の近似値が写し込まれます。Aレンズおよびリアコンバーターなどのアクセサリーを使用した場合は、- -mm が写し込まれます。
	印字例　45mm、55mm、75mm、80mm、100mm、160mm、300mm、- - mm など







写し込みをなくすための操作

1. 電源を入れます。

2. プレビューレバーを図の方向に押しながらアップ／ダウンボタンのどちらかを操作すると、表示パネルの D 表示が消えます。

＊再び撮影データを写し込むには、同様の操作で表示パネルに D を表示させてください。
＊多重露出では、最後のコマのデータだけが写し込まれます。
＊極まれに撮影データが画面の右端にわずかに掛かることがあります。
この部分に大切な被写体がくる場合は、念のため、データの写し込みをなしにしてください。

外付けストロボの使い方

TTLオートで使います

1. **カメラのホットシューに付いているホットシューカバーF_Kを外し、ストロボを取り付けます。**
2. **ストロボの電源スイッチを入れます。**
3. **ストロボの発光モードをTTLオートにします。**
4. **ストロボの充電完了を確認します。**
5. **ピントを合わせて撮影します。**

＊ストロボの充電完了ランプが点灯すると、カメラのシャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の ϟ も点灯しますので、ファインダーでも充電完了の確認ができます。
＊外付けストロボの詳細については、外付けストロボの説明書をご覧ください。

オートブラケット撮影について

TTLオートストロボ撮影でオートブラケット撮影を行うと、ストロボの光量だけが変わります。

ストロボお勧めマークについて

シャッターボタン押しでファインダー内にストロボお勧めマーク ϟ が点滅した場合、シャッター速度が低速になりカメラぶれを起こしやすくなります。三脚をお使いいただくか別売のストロボをご使用ください。 ϟ マークが点滅したまま撮影しても露出には問題ありません。

＊ ϟ の点滅は、露出モードがプログラム・絞り優先では写したい物が暗い場合と逆光の場合に、シャッター優先自動露出では逆光の場合にのみ表示されます。ただし、逆光時に ϟ が点滅するのは、測光方式が分割測光の場合だけです。

露出補正について

TTLオートストロボ撮影で露出補正を行うと、ストロボ光量と背景の明るさを同時に変えることができます。ただし、マニュアル露出では、補正後そのまま撮影を行うと、ストロボの光量だけが変化し、バーグラフの ▮ を中心に合わせると、背景とストロボ光の両方が補正されます。

当社製ストロボ組み合わせ時の機能一覧

カメラの機能	TYPE A	TYPE B	TYPE C	TYPE D
ストロボ充電完了で、ストロボの同調速度に自動的に切り替わる。	○	○	○	○
プログラム自動露出、シャッター優先自動露出では絞りが自動セットされる。	○	○	○注1	○注1
ファインダー内でオートチェックができる	○	○		
TTLオートストロボ撮影ができる。	○	○	○注2	
シャッター優先自動露出、マニュアル露出では低速シンクロができる。	○	○	○	○
AFスポットビームが使える。	○	○		
後幕シンクロ撮影ができる。	○	○		
光量比制御モードで撮影できる。	○			

TYPE A ：AF500FTZ[注3]、AF330FTZ
TYPE B ：AF400FTZ、AF240FT
TYPE C ：AF400T、AF280T、AF200T、AF080C、AF140C、AF200S_A
TYPE D ：AF200S、AF160、AF140

注1：TYPE C[AF200S_Aを除く]のストロボで、MS[マニュアルシンクロ]、M[マニュアル]を使うときやTYPE Dのストロボを使うときは、絞り優先自動露出、マニュアルおよびバルブで撮影してください。プログラムおよびシャッター優先自動露出では、絞りが変化してしまいますので使えません。
注2：AF200S_Aは不可。
注3：マルチストロボ、スレーブ機能が働きます。

AF500FTZ、AF330FTZ

●暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AFスポットビーム[赤色の補助光]を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
●オートズーム機構付きですから、レンズの焦点距離に対応して自動的に照射角度が変化します。[FAレンズ使用時のみ]
●スレーブ機能[コードレス]がご利用できます。[AF500FTZのみ]
●ストロボの液晶表示で、撮影可能距離を確認できます。
●マルチ発光モードがご利用できます。[AF500FTZのみ]
●露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
●充電完了後およそ3分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF240FT、AF400FTZ

●暗くてオートフォーカスの苦手な物でも、AFスポットビーム[赤色の補助光]を自動的に投光しますので、オートフォーカスを働かせることができます。
●露出モードがプログラム自動露出、シャッター優先自動露出、絞り優先自動露出であれば、ストロボの発光モードがマニュアルでも自動的にTTLオートになります。
●充電完了後およそ5分以上放置したときは、ストロボの電源が自動的に切れます。カメラのシャッターボタンを半押しするとストロボの充電が再開されます。

AF200T、AF280T、AF400T

●TTLオートモードで使用すると、周りの明るさによってシャッター速度が1／60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はレンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ[LSレンズを含む]使用時は1／60秒固定になります。絞り値は固定となりますが、フィルム感度により変化します。

●外光オート[赤・緑・黄位置]で使用すると、絞りは下表のように切り替わります。充電が完了すると、シャッター速度も1／60秒から低速側は手ぶれをしないシャッター速度まで自動的に変化します。なお、シャッター速度の低速限界はご使用レンズの焦点距離によって変化します。ただし、Aレンズ[LSレンズを含む]使用時は1／60秒固定になります。

	AF200T	AF280T	AF400T
赤	F2.8	F4	F4
緑	F5.6	F8	F8
黄			F11

[ISO 100の場合]

外付けストロボの多灯撮影

2個以上の外付けストロボを同時に使用する場合は、69ページのストロボ機能一覧表の同じタイプどうしを組み合わせるか、TYPE AとTYPE BあるいはTYPE CとTYPE Dの組み合わせでお使いください。

他社製ストロボを使用した場合

・他社製ストロボ[特に高電圧や高電流のストロボ]を組み合わせると、故障の原因になる場合があります。ペンタックス専用オートストロボの使用をお勧めします。
・カメラのXシンクロソケットにコードを接続した場合は、連動機能は働きません。
・スタジオ用の大型ストロボでは、極性が逆のものがあります。このタイプでは、645Nと組み合わせてもストロボが発光しません。詳しくは、ストロボメーカーにご相談ください。また、後幕によるケラレを防ぐため、念のため、同調速度より一段低いシャッター速度を使用し、事前にテスト撮影をされることをお勧めします。

日中シンクロについて

ストロボなし

ストロボ使用

昼間の明るいときでも、帽子などで人物の顔が陰になってしまうような場合に、ストロボを利用すると陰の取れたきれいな写真が撮れます。

日中シンクロのやり方は、一般のストロボ撮影とまったく同じですから、そのままシャッターボタンを押すだけで簡単にできます。

＊背景が明るい場合には、露出オーバーになることがあります。

低速シンクロについて

夕景などを背景に人物撮影をするとき、低速シンクロを利用すると人物も背景もきれいに写せます。

マニュアル露出の場合

1. **ストロボの電源スイッチを入れます。**
2. **マニュアル露出にします。**
3. **適正露出になるように適当なシャッター速度［1／60秒以下の低速］と絞りを選んでください。**
4. **撮影します。**

＊マニュアル露出では、「1.」の操作は撮影前のどの時点で行なっても結構です。

シャッター優先自動露出の場合

1. **シャッター優先自動露出にします。**
2. **好みのシャッター速度を選びます。**

＊ファインダー内の絞り値表示が点滅していると背景が適正露出になりませんので、点滅がなくなるシャッター速度を設定してください。

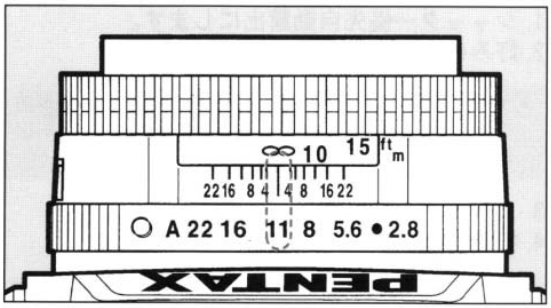
3. **ストロボの電源スイッチを入れます。**
4. **撮影します。**

＊「2.」の操作の前にストロボの電源を入れると、背景が適正露出になりませんので、シャッター速度を選んでから電源を入れてください。

＊低速シンクロの場合は、カメラぶれを防ぐため三脚をご使用ください。

プレビュー(絞り込み)について

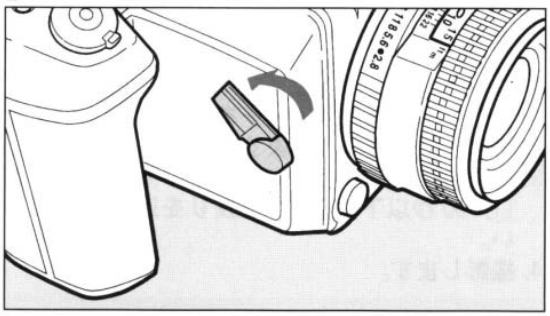
1



ファインダーを覗いたまま被写界深度(ピントの合う範囲)を確認できます。

1. 絞りを A 位置以外にします。

2



2. ファインダーを覗きながらプレビューレバーを図の方向に押すと、深度の確認ができます。

＊プレビューレバーを押すとセットされている値まで絞りが絞られ、ファインダー内の表示は消えます。
＊プレビューレバーを押したままでは、シャッターが切れません。
＊プレビューレバーを押すときは、必ず絞りを A 位置から外してください。

専用アクセサリー[別売]について

このカメラには、各種専用アクセサリーが用意されています。詳しくは、各サービス窓口にお問い合わせください。

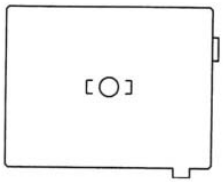
●ケーブルスイッチF
645N、MZ−3、MZ−5、Z−70P、Z−5P、Z−20P、Z−1P、Z−50P、SFXN等に使えるケーブルスイッチ。
●ケーブルレリーズ30/50
レリーズネジ穴のあるカメラに使えるレリーズコード。
●マグニファイヤー645
ファインダー中央部を拡大して見るアクセサリー。
●レフコンバーター645
ファインダーを見る角度を90°間隔に変えることができるアクセサリー。
●オートストロボAF500FTZ
ガイドナンバー50のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。スレーブ機能、マルチ発光や先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
●オートストロボAF330FTZ
ガイドナンバー33のAFスポットビーム内蔵オートズームストロボ。先幕・後幕シンクロ撮影などが可能。
●ホットシューアダプターFG、延長コードF5P、オフカメラシューアダプターF
AF500FTZ・AF240FT・AF330FTZ・AF400FTZをカメラから離してストロボ撮影するときのアダプターとコード。
●マクロストロボAF140C
ガイドナンバー14の接写用ストロボ。
●フィルター
スカイライト・曇天用・UV・Y2・O2・R2・円偏光があります。フィルター径は49mm・52mm・58mm・67mm・77mmの5種類です。
●リモートバッテリーパック645
寒冷地などで使用する電池保温用のアクセサリー。
●フィルムバック645
120用と220用の2種類があります。
●AF400T ブラッケット645
AF400Tを645や645Nに付けるためのアクセサリー。
●クイックシュー
カメラと三脚の迅速な着脱を可能にするアクセサリー。
●645ソフトケース(ブラック)
柔らかいバックスキンタイプのケースです。

●交換フォーカシングスクリーン

フォーカシングスクリーンは、標準スクリーンを含め下記の4種類が用意されております。
交換方法については、スクリーンの使用説明書をご覧ください。

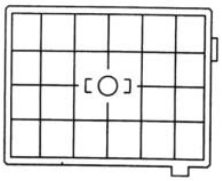
AS－80(AF センタースポットマット)

一般撮影用、標準品



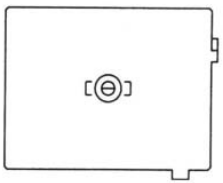
AG－80(AF方眼マット)

構図設定用(9mm 間隔の方眼付)



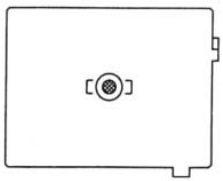
AB－82(AFスプリットイメージマット)

スプリットイメージ付



AA－82(AFマイクロプリズムマット)

マイクロプリズム付



アクセサリーの注意

●接写リングなど、絞りの連動がきかないアクセサリーを使用した場合や旧タイプのストロボで、絞りがA位置で使えないものの場合は、絞りをA位置から外してご使用ください。
●オートフォーカス機構の一部にハーフミラーを使用していますので、一般の偏光フィルターを使うとオートフォーカスの精度が低下します。オートフォーカスで使用するときには円偏光フィルターをご利用ください。また、露出の精度も低下しますので、円偏光フィルターの使用をお勧めします。
●リモートバッテリーパック645を使う場合、カメラ本体の電池ホルダーがセットされていないと電源が入りません。

リアコンバータについて

●レンズの種類や被写体（光）の状態によっては露出補正が必要になります。リアコンバータA645を使用した場合、露出が多少オーバーになります。
1.4×では約－2/3～－1EV、2×では約－1EVの露出補正を行ってください。(お好みの補正量を見つけるために、実写で確認することをお勧めします。)

●ダブルレリーズAが同梱されていないオートベローズ645をこのカメラに使用しても、シャッターが切れません。別売りのダブルレリーズAを下記のように取り付けてご使用ください。

ダブルレリーズAの取り付け方法

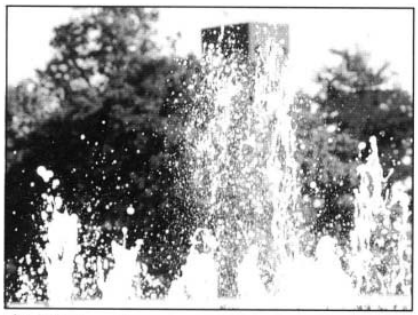
1. ダブルレリーズAの赤い輪の付いている方をオートベローズ645の前枠下側の赤い輪の付いているレリーズ穴にねじ込みます。
2. もう一方をカメラのレリーズねじ穴にねじ込みます。

ダブルレリーズAを押したとき、レンズが最小絞りまで絞られた後、シャッターが切れるように調整をしてください。最小絞りまで絞られる前にシャッターが切れるときは、先端に赤い輪が付いている方のレリーズの出方を多く、または、もう一方の出方を少なくしてください。

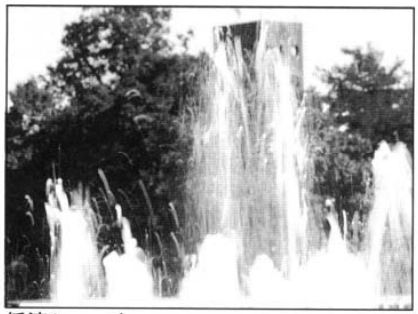
ダブルレリーズAの調整方法

先端のつまみを先の方から見て左方向に回してから、先端のつまみを押さえ、後方のつまみを同様に左方向に回して固定するとレリーズの出方が多くなります。逆に後方のつまみを右方向に回してから、後方のつまみを押さえ、先端のつまみを右方向に回すと出方が少なくなります。

絞りとシャッター速度の効果



高速シャッター



低速シャッター

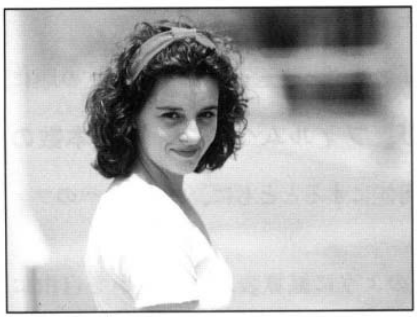
写したい物[被写体]の適正露出を決めることは、シャッター速度と絞り値の組み合わせを決めることです。ところが、写したい物が同じ明るさであってもシャッター速度と絞り値の組み合わせはいくつもあり、この組み合わせを選ぶことにより写真の効果を変えることができます。

シャッター速度の効果

シャッター速度は、光がフィルムに当たっている時間を長くしたり、短くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

シャッター速度が遅ければ、シャッターの開いている時間が長くなるため、もし、このとき写したい物が動いていれば、当然写したい物がぶれてしまいます。逆にシャッター速度を速くすると、動きのある物でも動きを止めて写すことができます。また、写したい物が動いていなくてもシャッター速度を速くすると、シャッターを切るときにカメラが動いてしまうカメラぶれを防ぐ効果もあります。また、川や滝、波などを低速のシャッター速度で写すと動感のある写真になります。

小絞り側



開放絞り側

絞りの効果

絞りは、レンズを光が通るときの光束[光の太さ]を大きくしたり、狭くしたりしてフィルムに当たる光の量を調節しています。

絞りを開いて光束を広くすると、ピントを合わせた物に対してその前後の物のボケが大きくなります。つまり、ピントの合う範囲[被写界深度]が狭くなります。逆に、絞りを絞って光束を狭くすると、ピントの合う範囲が広くなります。

例えば、風景の中で人物を撮影するときに、絞りを開いて撮影すると、ピントを合わせた人物の前後の風景のボケが大きくなるため、人物だけが浮かび上がる効果があります。

逆に、絞りを絞ると前後の風景にまでピントを合わせることができます。

サービス窓口での改造について

下記の8項目は、サービス窓口にご用命頂ければ改造(有料)を承ります。
複数項目の改造であっても、同時にご依頼頂ければ料金は同じとなります。
詳しくは、サービス窓口にお問い合わせください。

(1)シャッター速度の0.5段階(0.5EV)改造
シャッター優先・マニュアル露出時に設定されているシャッター速度に対して、±0.5段階の範囲でシャッター速度を設定できます。

(2)プログラムシフト改造
プログラム自動露出時に0.5EVステップでプログラムシフトができます。

(3)バルブタイマー改造
バルブ露出時に4秒から500秒までの間で設定できます。

(4)オートブラケットのステップ変更改造
オートブラケットレバーを「2/3」位置に合わせた場合、1/2の補正量で制御されます。

(5)オートブラケット順序変更改造
オートブラケットを「適正→アンダー→オーバー」の順にするか「アンダー→適正→オーバー」の順にするかを自由に選択することができます。

(6)ファインダー内へのフィルム本数とフィルム枚数の表示及び、フィルムへのフィルム本数の写し込み改造
ファインダー内へのフィルム本数および、フィルム枚数の表示を可能にするとともに、フィルムへのフィルム本数の写し込みを可能にします。

(7)フィルム枚数減算表示改造
フィルム枚数表示を「1•2•3•••」のように加算か「16•15•14•••」のように減算表示にするかを自由に選択することができます。

(8)測光タイマー時間変更改造
測光タイマーの時間を5•10•20•30秒のいずれかに変更できます。

改造時の注意事項

●項目 (2) の改造をしても、ファインダー内や表示パネルで、プログラムシフトをしているかどうかの確認はできません。
●項目 (4) の改造を行い「1/2」を選択しても、ファインダー内のバーグラフの点滅表示や、オートブラケットレバーの数字は「2/3」のままです。ただしフィルムには「−0.5EV」「+0.5EV」で写し込まれます。
●項目 (6) では、フィルム本数の上限は200までで、201本目は1に戻ります。ただし、200本目に限りファインダー内には、100が表示されます。この場合もフィルムには200が正しく写し込まれます。
●項目 (6) の改造を行うと、フィルムに写し込まれるフィルム本数の数字が画面内に入り込み、データが見えにくくなることがあります。